

令和3年度 教職員による自己評価・中間評価のまとめ（令和3年7月末）

湯梨浜町立湯梨浜中学校

各評価項目の取組状況

（A：充分達成できている… 4

B：ほぼ達成できている… 3

C：取り組んでいるが成果が十分でない… 2

D：取組が不十分… 1）

※平均値について A相当 4.0～3.25、B相当～2.5、C相当～1.75、D相当～1

1 教職員による自己評価・中間評価

（1）学習に自ら主体的に取り組む生徒の育成に努める

平均値	主な評価理由や参考となるエピソード（抜粋）
【2.9】 (R2 2.8) (R1 2.5) A 14% B 70% C 14% D 2%	○一人一回の研究授業など、学校全体で協同学習の取り組みを行い、徐々に成果も上がってきていると思われる。各教員が授業づくりに励み、校内授業研が実践者以外も学びのある場となっている。 ○授業での学習活動にどの生徒も参加できている。互いの考えを共有する中で、仲間の考えに刺激を受けて成長する姿が見受けられる。 ○集団としての活動の際に、生徒同士の関わり合いや、教え合いの姿勢は非常によく培われているように感じる。学習に向かう姿勢(授業規律等)については充分できている。 ○協同学習の理念のもと、学習に落ち着いて取り組む姿が全学年で見られる。今後は落ち着いて取り組むプラス自ら意欲的に探求していく姿が増える工夫をしていくことが課題。 ○自己評価カードの学習の感想の中で、自分なりに学習を深めたり広げたりしているという言葉が増えてきた。 ○家庭学習が習慣化している生徒が多く、未提出者がほとんどいない。 ○1年生の中で、定期テスト課題を早めに終わらせて自主学習をする時間を設ける生徒が増え始めた。 ○iPadを取り入れたことで、伝え合いや議論が活発になり、建設的相互作用を引き起こすことができている場面が見られた。 ○タブレットを活用して、各自のペースでワークなどの問題に取り組んでいる。 ▲生徒の主体的な取り組みは個によって依然差がある。個人として課題に挑戦する際に課題に向かう意欲が弱い生徒が多くいる印象を受ける。声かけをしないと学習に取り組めない生徒がいる。 ▲ペアや班の中で教え合いをする場面で、一部の生徒がいつも受け身になっている。 ▲学習に対して困り感のある生徒への指導が不十分であると感じる。 ▲低位の生徒だけに着目した授業が多いと感じる。 ▲主体的にという点がまだできていないところではないかと感じる。学習課題に関してもやれば良いという意識の生徒も多く、なぜするのか、どのような力がつくのかを意識した学習になっていない。 ▲与えられた課題を解決することで満足してしまい、自分なりの工夫をしたり、深く追究したりする意欲は乏しいと感じる。授業内で関わり合いの場の設定や共通目標の設定という決められた枠の中では自主的にしているように思うが、教科の本質をとらえて、授業外で自主的に学習をしている生徒は多くはないと思った。 ▲授業の自己評価の個人差が大きく、教員から見て概ね取り組みが不十分だと思える生徒が自己評価でAをつけていたりする。明確な課題提示や活動の説明をして生徒に理解させて活動させる。 ▲主体的に取り組む生徒や新しいクラスになっての人間関係作りが前向きではない学級もあり、今後の対策が必要だと考える。 ▲家庭学習が習慣化していない生徒への対応が不十分。

	▲自ら前向きに学習に取り組むためには基本的な生活習慣とくにネットに関わる問題が大きく、不登校傾向になっている生徒もあるなかで、家庭の問題だからと片づけられない現状に、どう学校として取り組むべきか考えなければならないように思う。
--	--

(2) 温かな人間関係づくりを促進し、生徒自ら魅力的な学校づくりに取り組めるよう努める

平均値	主な評価理由や参考となるエピソード (抜粋)
【3.0】 (R2 2.8) (R1 2.5) A 13% B 71% C 16% D 0%	○学年によって差はあるが、非常にあたたかな関わり合いをすることができる生徒が多い。困っている人を助けようとする姿勢が生活の中で多くみることができる。 ○問題が全くないわけではないが、全体的に見て温かな人間関係づくりができていのではないかなと思う。 ○終学活での「ありがとうプロジェクト」を通して、友だちのいいところに気づける生徒が増えてきた。 ○生徒会活動や学級活動など生徒が主体となって進められている。生徒会の「校歌が響く学校にしたい」という想いを実現させようと校歌の練習を多く取り入れたり、給食時間に校歌を流したりしている。 ○生徒会の中で問題が発生した場合に執行部生徒同士で話し合い解決していた。 ○執行部が中心となり生徒集会が隔週で行われている。 ○生徒会が学校をよりよくしようと取り組んでいる。また、昨年度の生徒会活動のような活動ができていないことに悩み相談に来た生徒があり、魅力的な学校づくりに自ら頑張る姿に頼もしさを感じた。 ○得意・不得意、できる・できないはあるが、委員会活動に生徒はよくがんばっている。 ○あいさつを積極的にできる生徒が多い。 ○協同学習を進めていくと、人により良く教える、伝える事で自分の理解や学習が深まることに気づいていく。人に役立つことは、人と良く関われるということに繋がり、学習の場面でその姿が芽生え始めていると感じる。 ○トラブルを経験しながら、生徒自身がよりよい関係づくりに必要なことを学んでいるように思う。 ○部活動の場面で先輩が良い姿を見せてくれていて、「嬉しい」「懂れる」と感じる1年生がいる。 ▲学校づくりという面では、生徒会執行部主体で動いているが、1人1人の生徒が学校づくりに参加している意識は低いと思う。学級での活動の活性化が必要。 ▲周りのため、集団のための行動をとれる生徒がまだ少ない ▲日々のネガティブな発言や、友だちを思いやるあたたかな言葉かけが少ない場面もみられる。相手や場にふさわしい言葉遣いが出来ない生徒がいる。 ▲支援学級内で相手を攻撃する言葉が多いのが残念。 ▲困っている生徒のために進んで行動出来る生徒も多いが、無関心で何もしない生徒もいる。 ▲誰もが、自分の思いを発信できるような集団にはまだなれていない ▲人権教育において、社会の中にある人権問題について、講演会を聞き、振り返りシートを記入するのみの学習になっている学年があった。 ▲SNSによるトラブルも発覚し、「温かな」人間関係とは言えないと感じる。 ▲友だちとの関係づくりがうまくない生徒があり(メディアの使用法でも)、より人間らしい付き合い方が難しくなっている現状がある。 ▲自分の気の合う人との付き合いに限定されてしまいがちで、コミュニケーションの取り方や人との付き合い方についてもっと伝えていきたい。 ▲声かけが上手でない、または人に伝わる態度・声の大きさが弱い。

	▲魅力的な学校づくりには、何か核となるものが必要ではないかと思う。 ▲担任、学年団等で様々な対策はしていると思うが、学年があがるにつれて、不登校生徒や相談室登校の生徒が増えている現状があるから。また、誰もが、自分の思いを発信できるような集団にはまだなれていないから。 ▲もっと学校に来たいと思えるような魅力ある学校の特色や湯梨浜中学校独自の伝統を生徒会中心に進めていきたい。 ▲生徒自ら魅力的な学校にするためには、教職員も同一步調で指導するところは指導する、見守るところは見守るという職員同士の共通認識も必要。
--	---

(3) 保護者や専門機関、地域社会等との連携を深め、長期欠席が生じないように努める

平均値	主な評価理由や参考となるエピソード（抜粋）
【2.8】 (R2 2.8) (R1 2.5) A 11% B 61% C 29% D 0%	○長期欠席の生徒や相談室登校の生徒への対応が適切に行われていた。 ○生徒への聞き取りなどを行い長期欠席が生じないように取り組んでいた。 ○何かあったときの保護者連絡や支援会議などが迅速に行われていた。欠席しがちな生徒の保護者と時間を作り、こまめに連絡をとっている。専門機関との連携も密に取れていると思う。(カウンセリングなど) ○長期欠席が生まれないように、担任を中心に、学年団や不登校担当で連携を図りながら、対応しており、登校日数が増えている生徒もいる。保護者・専門機関等との連携を充実させ、引き続き対策を強化しなければならない。 ※8月末で30日以上欠席者12（不登校9、病気3） R2の同時期は16（不登校11、病気5） ○昨年度不登校だった生徒の登校ができていたり、登校日数が増えたりする生徒がいる。不登校にまでは発展せず、別室登校や早退等、生徒によって可能な範囲で登校している。 ○コロナの影響もあり、地域に出て行く機会は少なくなったように感じるが、その中でも各学年が工夫をして、地域との関わりを持っていた。 ○ホームページ更新などによりコロナ禍でも保護者や地域の方とのつながりをつくることに努めている。また、家庭連絡・家庭訪問を継続的に言い、繋がりを切らさないようにしている。 ○生徒は地元の風景や伝統に対して肯定的な意見を持っている。 ○相談室日誌などもいつでも閲覧できるので良と思う。 ▲保護者との連携を取る必要がある生徒の家庭と連絡が取りづらい実情がある。 ▲極力どの職員も密な連携に努めていると思うが、思いがうまく伝わらなかったり間違っって捉えられたりすることで連携がうまくいかないことがあった。 ▲相談室で過ごす生徒の様子が学年団や他の教職員に伝わっていないこともある。担任のみの関わりになっていないか。 ▲相談室登校も多く、長期欠席の生徒も改善がないので、今後も継続的に取り組んでいかなければならない。 ▲今まで毎日登校していた生徒が、人間関係やトラブルから登校できなくなり、聞き取りや話し合いの場を設け、問題は解決したかのように思えるが、教室には入れず、欠席や相談室登校が長期化してしまう現状がある。 ▲学年が上がる際の引継ぎが十分でないように感じる。問題が発生し、対応をしていく中で、指導が終わるころに「去年はこうだった」という話がでる場面が何度かあった。 ▲クラス替えをする度に長期欠席が増えてしまう。 ▲教室に入れない生徒が増えてきている。 ▲特別支援学級の担任は、日中の生徒対応の負担が大きいように感じる。

2 今後の取組

(1) 学習に自ら主体的に取り組む生徒の育成に努める

- 一人一回の研究授業など、協同学習の理念を生かした学校全体での授業研究を推進し、協同学習の定着を図る。
- ・個人活動、集団活動のねらいや課題、必要な情報や資料とその提示方法などをさらに工夫し、どの場面でも主体的な取組ができるよう、さらに授業改善を進める。
- ・特に集団活動について、その意義や効果について理解させて、目的意識を持たせて活動させる。
- ・特に個人の活動において、各自がより高い目標を設定し、挑戦できるような教材の準備と指導を工夫する。
- ・授業の振り返りを大切にし、どの生徒も学習してよかったという達成感につなげ、次の学習への工夫をさせるようにする。また、振り返りで分かりやすい目標を提示し、適切に自己評価できるように工夫する。
- 必要な生徒には個別に適切な声かけや参考資料の提示等を工夫する。
- 家庭学習について、授業と家庭学習の課題を一体化して、予習と復習に取り組みやすくする工夫をする。

(2) 温かな人間関係づくりを促進し、生徒自ら魅力的な学校づくりに取り組めるよう努める

- コロナ禍にあっても、生徒同士、生徒と教員の関係構築に有効な活動を精選し必要なコロナ対策を講じた上で可能な限り実施できるよう工夫する。特に行事を核として日々の活動を充実させていく。
- 生徒会執行部の意欲を生かし、さらに生徒を前面に出した活動を進めていく。その中で、学級委員を動かし、生徒会執行部と各学級をつなぐ方法を工夫し、一人一人がよりよい学校づくりに参画する意識を高める。
- 人間関係トラブルの未然防止と回復促進のため、二学期以降も時間をつくってSSTに取り組む、日頃からコミュニケーションスキルを高める。
- 教員から積極的にポジティブな言葉をたくさん投げかける。
- Q-Uの分析を生かした学級、学年の取組の推進。全体指導、個別指導。
- 安全なSNS利用についての指導場面をつくる。
- 今、社会にある人権課題を扱った教材開発。

(3) 保護者や専門機関、地域社会等との連携を深め、長期欠席が生じないように努める

- 定例委員会（不登校対策、生徒指導、いじめ対策・企画、特支等）で情報共有し、各委員会では具体的な方策を考え、学校全体で取り組む。
- 役割分担を明確にし、専門機関等との連携の充実を図る長期目標、短期目標を設定しながら、取り組む。担任が中心となるのはもちろんだが、不登校担当や学年団で協力しながら、負担が偏らないように対応を進めていく。
- 生徒一人一人をしっかりと見ながら実態把握と不登校傾向の早期発見に努め、教員とのつながりをつくり、生徒の思いや考えを受け止め、SCやSSWと連携し、本人の背景にあるものを踏まえて策を講じるようにする。
- 保護者の悩みも傾聴しながら、協力関係を築くようにする。また、必要に応じて専門機関につなぐようにする。
- 本人、保護者に、過去の事例を示しながら進路目標を持つよう促す。
- 引き継ぎを丁寧に行う。新年度、全く新しい教員が担当することがあることを念頭に文章化して引き継ぐ。